

日本旧石器学会

ニュースレター 第12号

NEWS LETTER No.12

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

第7回日本旧石器学会の開催

2009年6月27日・28日に鹿児島県霧島市鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて、第7回日本旧石器学会が開催され、総会、記念講演、一般研究発表、シンポジウム「南九州の旧石器時代石器群―「南」の地域性と文化の交錯―」ならびにポスターセッションが行われた。初めての地域研究会との共催であり、今後のモデルケースとなった。

大会1日目は、午前中に総会が行われ、各委員会の2008年度活動報告、2009年度活動計画が説明されるとともに、新たに「教科書問題」およびホーム・ページの作成管理などを所管する広報委員会の設置が提案され、了承された。また、委員会報告の中で、データ・ベース委員会から今年7月末には全都道府県の資料が揃う見込みであること、今年度内の刊行を目指して成果を取りまとめることなどが報告された。

午後からは、一般研究発表、記念講演、シンポジウム趣旨説明が行われた。一般研究発表は4本で、内容は調査報告1、研究報告3である。調査報告は2006～2008年に行われた長崎県福井洞窟、直谷稲荷神社岩陰発掘調査の概要報告（川内野篤）である。研究報告の内訳は、国内2、西アジア1で、遺物分布の分析（絹川一徳）、実験的手法を加味した技術論（大場正善）、遺構の空間分析など（西秋良宏ほか）である。

記念講演は鹿児島大学大学院理工学研究科井村隆介氏により「南九州の環境変遷史」と題して行われ、氷期・間氷期のサイクルに伴う環境変動と火山噴火に伴う環境変動の二つの視点から旧石器時代から縄文時代前半期にかけての南九州の環境変遷史が述べられた。まず、最終間氷期から徐々に寒冷化し最寒冷期を経て縄文時代前期に至るまでの気候変化と植生変遷について概観し、最寒冷期には鹿児島市周辺で温帯針広混交林が成立していたと推定した。次いで、海水面変動と地形変化、動植物群の移動、分布について議論し、南九州の動植物相を考える上でトカラギャップの存在は大きく、少なくともこの10万年間に大きな陸橋が成立した地形学的な証拠はないこと、寒冷期には陸地が広がり海を越えて動植物の移動できる可能性が大きくなり、温帯系動植物は南下しやすいが、亜熱帯系動植物の北上は困難であることなどを説明した。最後に、始良カルデラ、喜界カルデラ噴火などの大規模火山災害に伴う環境破壊の規模、環境回復のスピードなどについて



写真1 討論会の様子

説明し、きわめて広範囲の地域が壊滅的な打撃を受け、人々の食生活スタイルを大きく変えざるを得なかったことが指摘された。

大会2日目はシンポジウムで、午前には基調報告、午後にはパネルディスカッションが行われた。基調報告は5本用意され、南九州の石器群の様相について、後期旧石器時代前半期（鎌田洋昭）、後半期（馬籠亮道）、細石刃石器群（松本茂）の3時期に分けて概観した。また、周辺地域の様相として、韓国（張龍俊）、東南アジア（西村昌也）の後期旧石器時代の様相が取り上げられ、前者については九州との比較と関連が述べられた。また、宮田剛、杉原敏之、杉山真二、木崎康弘、佐藤宏之の各氏がコメントを行った。

討論会は3つの検討課題が設定された（司会：伊藤健・宮田栄二）。第1は「後期旧石器時代前半期と東・東南アジア」で、南九州の前半期初頭の石器群を中心に列島における編年的位置、南西諸島、沖縄の状況と南九州との関連、東南アジアとの系統関係について検討された。この中で、鎌田洋昭氏から考古学的には南九州との共通点、相違点があるが、出土の状況などから現状では評価が困難であること、井村隆介氏からは古地形を含む古環境はトラカ列島付近の北で大きな相違があったと想定されること、海部陽介氏から現在港川人の再検討途上ではあるが、港川人は九州以北の縄文人には似ておらず、アボリニジなどのオーストラロメラネシアンに共通することなどが指摘された。さらに、西村昌也氏は南西諸島などと東南アジアの旧石器は直接石器群の内容を議論するような共通性はないこと、利用石材、行動などに基づく石器変異を前提に文化的系統の議論を行う必要があることなどを指摘した。第2は「後期旧石器時代後半期と韓半島」で、南九州における石器群の成立と変遷、火山噴火を中心とする自然災害と石器群変化、韓国を中心とする朝鮮半島との関連などが議論された。この中で、森崎一貴氏から西南日本においては共通した技術構造の変化が窺えること、井村氏から大規模噴火と小規模噴火では環境破壊の規模が大きく異なり、人間の生活様式に与える影響は大きく異なると想定されること、藤木聡氏から考古学的にもシラス台地縁辺にあたる宮崎県側ではA T前後で遺跡分布、石材利用に変化が認められることなどが指摘された。また、朝鮮半島との関係では、張龍俊氏から交流には集団移住と技術情報の伝播の2種類があり、剥片尖頭器については九州の石器群の状況から後者の可能性が高いこと、松藤和人氏からは剥片尖頭器の出現を考えると九州地方に特徴的な石器型式や石器群が韓国側になく、逆に韓国と共通形態の搔器が九州川に存在する事実は重要で、朝鮮半島から九州への流れを想定できることなどが指摘された。第3は「細石刃石器群と縄文化」で、南九州に特徴的な畦原型、加治屋園型細石核の成立の背景、更新世から完新世への環境変化について議論された。前者では、松本茂氏は石材や石材の供給パターンが関係する可能性があること、芝康次郎氏は畦原型と加治屋園型は分布や石器群構造に差があるが、現状では行動論的に成立背景を説明できないことなどを述べた。最後に、萩原博文、稲田孝司、小野昭、白石浩之の各氏にコメントが求められ、会が締めくくられた。

ポスターセッションは12本で、内訳は考古学7、関連科学3、関連科学との共同成果2である。製作技術論、編年論、遺跡形成論、周辺地域の研究成果、形質人類学研究、理化学的年代測定など幅広い発表内容であった。また、学会期間を通じて鹿児島県、宮崎県ほかの出土遺物の展示が行われ、熱心な観察・議論が続いた。（藤野記）



写真2 遺物展示見学風景

2008 年度委員会報告

総務委員会 2009 年度に九州旧石器文化研究会と共催で旧石器学会を計画したため、通常事務と鹿児島大会関連事務の 2 つに分けることができる。前者では、1. 会員名簿の管理（新入会員の入会・会員住所変更など）、2. 第 7 回旧石器学会全般にわたる運営事務（現地協議ほか）、3. A P A 中国大会に関する会員周知等、4. 役員間・委員会間の連絡、会誌 4 号、ニュースレター第 10・11 号などの発送、5. 旧石器研究、ニュースレター、シンポジウム予稿集バックナンバーの保管ならびに会誌、予稿集の販売（日本考古学協会 2009 年度総会図書交換会での刊行物販売を含む）、6. 「教科書問題」作業部会の立ち上げ、ホームページ（以下、HP）立ち上げのための準備事務を行った。1 については、2009 年 3 月で会員数 232 名、2008 度の新入会員 8 名、退会者 2 名である。また、5 については会誌等は明治大学博物館に保管しており、会誌・シンポジウム予稿集の販売を六一書房に委託している。後者では、1. 九州旧石器文化研究会鹿児島県実行委員会との協議、2. 旅行業者との折衝を行った。

会誌委員会 2008 年度の委員交代に伴い従来の 4 名体制から 6 名体制となり、会誌第 5 号の編集を行った。編集委員が分担して編集作業を行い、木崎が最終的な編集、印刷所との交渉などを行った。第 2 号からシンポジウムの成果を反映させる目的でシンポジウム小特集を行い、関連原稿については会誌委員の査読のみであったが、本誌の査読誌としての性格を明確にするため役員会の議論を通じて本号から一律査読を行うこととなった。これに伴い、発表者には執筆依頼状に替えて査読制度を適応する旨を明記した執筆案内状を送付した。第 5 号は、シンポジウム特集原稿 5、一般投稿原稿 4 で査読審査の結果、全て掲載した。最終的に、巻頭言 1、シンポジウム特集 5、原著論文 1、翻訳 2、報告 1、書評 1、2007 年度委員会活動報告など本文は 163 頁、表紙、目次などを加えて合計 166 頁とな

った。

渉外委員会 2008 年 6 月にロシア共和国アルタイ州で開催された A P A 設立総会に参加した。設立総会は「オクラドニコフ生誕 100 周年記念国際シンポジウム」開催会場で行われ、事前に日・露・韓・中 4 ケ国代表者が協議を行い、会長、副会長、執行委員の選出を行った上で、6 月 29 日に総会を開催して参加者に承認された。実質的には今回のシンポジウムが第 1 回の A P A 大会となった。また、今後の予定として、2009 年度は中国、2010 年度は韓国、2011 年度は日本での開催が承認された。2009 年度の第 2 回 A P A 大会は 2009 年 10 月 19 日～23 日に北京市において中国科学院古脊椎動物・古人類研究所、中国科学院地質・地球物理学研究所の主催で行われる「北京原人発見 80 周年記念古人類学国際学会・第一回アジア第四紀学会会議」の特別セッションとして開催される。これに関連して、A P A 大会が独立して設定されていないこと、「スヤンゲとその隣人たちシンポジウム」が A P A の後援で実施されることなどファーストサーキュラーにおける疑義を中国側の実質的委員長である高星氏に提出し、訂正をお願いした。前者については妥協せざるを得ない状況であったが、後者については削除させることとした。日本旧石器学会からの情報発信は例年通り行っており、『旧石器研究』第 4 号、ニュースレター第 10、11 号を、韓国、中国、ロシアの学会事務局宛に送付した。

ニュースレター委員会 2008 年度は第 10 号を 2008 年 10 月、第 11 号を 2008 年 4 月に発行した。第 10 号は、2008 年 6 月に首都大学東京講堂ホールで開催した第 6 回日本旧石器学会の報告ならびに 2007 年度委員会活動報告、2008 年度委員会活動計画などの定例報告とともに、アジア旧石器協会の設立報告および A.P. オクラドニコフ生誕 100 周年記念国際シンポジウム参加記を掲載した。第 11 号は、最近の研究動向の紹介として、中国における中・後期旧石器時代の研究動向について奈良文化財研究所（飛鳥資料館）加藤真二に依頼した。このほか、新会長の就任挨拶、2009 年 6 月開催（鹿児島県）予定の第 7 回日

本旧石器学会のお知らせなどを掲載した。

研究企画委員会 2008年6月22日開催のシンポジウム「日本列島の旧石器時代遺跡—その分布・年代・環境—」の企画を立案し、6月21日に行った記念講演、一般研究発表、6月21日・22日に行ったポスターセッションを含めた開催準備（発表依頼、シンポジウム予行集の編集・刊行）および当日の運営を行った。また、2009年度開催予定の鹿児島大会に向けて九州旧石器文化研究会とシンポジウム他の内容について協議を行い、シンポジウムテーマは「南九州の旧石器時代石器群—「南」の地域性と文化の交錯—」、記念講演は鹿児島大学井村隆介氏に「南九州の環境変遷史」を演題としてお願いすることなどを決定した。

データベース委員会 日本旧石器時代（先土器・岩宿）遺跡データベース作成作業を継続した。2008年度までに37都道府県、10431件のデータが寄せられていたが、2008年度にさらにお願いをして43都道府県、11709件のデータが寄せられ、残りを含めて年度内に成果をまとめられる見通しとなった。現在、成果刊行に向けて最終的なデータのチェックをして、各都道府県にデータの補足、修正などをお願いしている。また、成果を刊行物として出版することを前提として作業を進め、その内容について検討した。

2009年度活動計画

総務委員会 役員間・委員会間の連絡調整、会員名簿の管理などを引き続き行うとともに、2010年度大会開催のための協議事務、2010—2011年度役員改選選挙事務、2011年度の第4回A P A日本大会開催に向けての協議事務などを関連委員会と連携しながら行う予定である。2010年度大会については東京の明治大学を会場とする方向で協議している。

会誌委員会 旧石器研究第6号の編集を行う。構成は、巻頭言、総説、原著論文、研究ノート、資料報告、書評、2009年度活動報告などで、論文等はシンポジウム特集を予定している。合計200ページ程度の分量を目

指したい。査読をはじめとする編集作業に多くの時間を必要とするためご協力をお願いしたい。

渉外委員会 2011年度のA P A日本大会に向けて、A P A執行委員を中心に総務委員会とも協力しながら準備をすすめる。開催実行委員会については2010年度の役員改選を待って立ち上げたい。

ニュースレター委員会 本年度から当面年3回の刊行を行うこととなり、12号を2009年10月初旬、13号を2010年1月下旬、14号を2010年4月中旬に発行したい。12号は第7回旧石器学会報告、委員会報告など、13号は第2回A P A中国大会報告などを掲載予定である。依頼原稿としては、これまでの東アジア旧石器時代研究の動向、関連学会の研究動向に加えて研究の回顧と展望などもテーマに加えたい。また、今後、広報委員会との連携も模索していく。

研究企画委員会 第8回旧石器学会シンポジウム、記念講演、一般研究発表、ポスターセッションの準備を進める。シンポジウムのテーマについては今後中期的な展望をもって検討していきたい。

データベース委員会 成果の年度内刊行に向けて準備を行う。出版は学会独自に行ない、データベース資料作成関係者には1部ずつ献本の予定である。出版物の内容等については6頁を参照願いたい。

広報委員会 役員会、総会の承認を得て、今年度から新たに発足した。「社会科教科書問題」の検討・対応とHP作成・管理を主として活動を行う。前者については、2009年2月に「教科書問題」準備作業部会が立ち上げられ、昨年度2回の会合を行い、小・中・高校教科書を比較検討し、記載の現状を把握した。これを受けて、今年度は具体的な対応について検討したい。後者については、情報化社会における情報発信手段として、活動の公開、新入会員募集の促進、会員との情報の活性化、データベースの公開などを目的として本年度中に開設することとなった。内容は、組織・会則、大会案内、出版物案内、新入会員申し込み案内、メールボックスなどで、国立情報学研究所の学協会情報発信サービスを利用し、実際の管理、更新については外部委託する。

日本旧石器学会 2008 年度決算内訳

単位：円

取 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,330,000	1,144,000	-186,000	2008 年度 158 名、2007 年度 25 名、2006 年度 11 名、2004-5 年度 4 名、2009 年度 30 名、2010 年度 1 名
2 雑収入				
会誌頒布代金	496,000	481,200	-14,800	会誌 4 号 83 部、バックナンバー 53 部
シンポジウム予稿集頒布代金	268,000	390,400	122,400	予稿集 6 号 243 部、バックナンバー 50 部
雑収入		43,264	43,264	懇親会残金、他
前期繰越収支差額	1,120,237	1,120,237	0	
小計①	3,214,237	3,179,101	-35,136	
支 出				
費 目	予算総額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	68,118	-11,882	役員会等会議費、考古学協会図書交換会卓代、他
旅費交通費	125,000	31,000	-94,000	総会シンポジウム発表者交通費補助、他
通信運搬費	204,500	123,300	-81,200	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、他
消耗品費	84,500	22,451	-62,049	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,456,000	1,463,500	7,500	会誌、予稿集、ニュースレター、他
諸謝金	85,000	40,000	-45,000	講演料
雑費	14,000	14,800	800	雑費(銀行手数料等)
仮払金		50,000	50,000	09 年度総会準備金
予備費	1,165,237	0	-1,165,237	予備費、他
小計②	3,214,237	1,813,169	-1,401,068	
次期繰越金小計①-小計②	0	1,365,932		

日本旧石器学会 2009 年度予算内訳

単位：円

取 入				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,410,000	1,330,000	80,000	(会員 232 名) × 5,000 円、(週及分 50 名) × 5,000 円
2 その他の収入				
会誌頒布代金	350,000	496,000	-146,000	50 部 *4000 円=200,000 円、バックナンバー 150,000 円
シンポジウム予稿集頒布代金	300,000	268,000	32,000	会員頒布 100 部 *1,200 円=120,000 円、一般頒布 80 部 *1,500 円=120,000 円、バックナンバー 60,000 円
前期仮払金	50,000	0	50,000	09 年度総会準備金
前期繰越収支差額	1,365,932	1,120,237	245,695	
小計①	3,475,932	3,214,237	261,695	
支 出				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	80,000	0	役員会会議費、総会会場設営費、他
旅費交通費	125,000	125,000	0	役員会議旅費補助、国際会議旅費補助、発表者旅費補助、他
通信運搬費	150,000	204,500	-54,500	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、校正連絡、他
消耗品費	50,000	84,500	-34,500	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,956,000	1,456,000	500,000	会誌、ニュースレター、他
諸謝金	85,000	85,000	0	臨時事務補助謝金、講演発表謝金、他
委託費	60,000	0	60,000	H.P. 立上げ
雑費	20,000	14,000	6,000	雑費(銀行振込手数料他)
予備費	949,932	1,165,237	-215,305	予備費、他
小計②	3,475,932	3,214,237	261,695	
小計①-小計②	0	0	0	

役員選挙のお知らせ

日本旧石器学会の役員選挙告示

2009年10月1日

会員各位

日本旧石器学会選挙管理委員会
委員長 田代 治

日本旧石器学会会則6・7条および役員・会計監査委員・顧問選出規定により、下記のとおり、役員選挙を実施いたします。

記

1. 立候補者・候補者推薦の受付

立候補者および候補者推薦は、別記作成方法により、2009年12月30日（水）までに日本旧石器学会選挙管理委員会（〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学博物館内 日本旧石器学会事務局）に届け出てください。選挙公報に掲載する原稿は100字以内です。

2. 選挙公報・投票用紙

2010年1月下旬に発送します。

3. 投票期間

2010年2月1日（月）～2月20日（土）

4. 役員の決定

投票の結果、得票数の上位22位までを役員とします。ただし北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州7地区の上位得票者から役員1名を選出し、他15名を上位得票者数によって役員とします。辞退者がいる場合は順次繰り上げとなります。

5. 被選挙権のない会員

現役員22名は全員改選の対象になります。以下の

会員を除く全会員に被選挙権があります。被選挙権がない会員は、伊藤健、稲田孝司、小畑弘己、木崎康弘、佐川正敏、佐藤良二、白石浩之、砂田佳弘、比田井民子、藤野次史です。

2009年10月1日

立候補者・推薦者各位

日本旧石器学会選挙管理委員会
委員長 田代 治

日本旧石器学会の役員選挙にかかわる公報の
原稿作成について（依頼）

役員選挙立候補・推薦にかかわる公報の原稿については、下記により作成方お願い致します。

記

1. 原稿作成方法

A4版横書きのペン書き、またはワープロ原稿（A4、10.5ポ、横書き、ワード他）。なお、ペン書きの原稿はワープロ原稿に直して掲載します。

1. 推薦候補 ①候補者名、②推薦内容、③推薦者氏名
2. 立候補 ①立候補者名、②自薦内容
②の内容は100字以内でお願いします。

2. 送付方法

下記に郵送してください。推薦候補の場合は、本人の承諾を示すサインまたは押印、推薦者のサインまたは押印が必要です。また、立候補の場合は電子メールに添付して送付しても構いません。

3. 原稿締切 2009年12月30日（水）

送付先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学博物館内

日本旧石器学会事務局 島田和高

電子メールアドレス shimameiji@hotmail.co.jp

日本旧石器学会役員選挙日程 (案)

2009年

10月 本号刊行による告示

12月30日(水) 立候補・候補者推薦の締め切り

2010年

1月下旬 選挙公報及び投票用紙送付

2月1日(月)～2月20日(土) 選挙期間

2月20日消印まで有効

2月 選挙管理委員会による開票

4月 ニュースレターにて選挙結果報告

6月 総会にて選挙管理委員長報告

『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース』の刊行予定と購入予約について

日本旧石器学会が2003年以来、学会内外130名以上の研究者の協力を得て作成してきた日本列島全域旧石器時代遺跡データベースが、いよいよ上記のタイトルで2009年12月から2010年3月の間に刊行できる運びとなりました。そこで、学会員各位の購入予約をお願いするとともに、周囲の皆様にも購入予約を勧めて下さるようお願いする次第です。

2009年6月末時点で入力されたデータ数は約12,000件で、まもなく全県のデータが揃う見込みです。データは1遺跡1件を基本としつつ、重複文化層の遺跡については1文化層を1件としています。対象遺跡は旧石器時代遺跡と縄文時代草創期遺跡です。

電子データの内容は、遺跡(文化層)1件ごとに所在地、緯度・経度・標高、石器の器種組成、土器の種類、遺構・石器ブロック・礫・炭化物集中の有無、関係文献等を記載したもの。器種組成の項目にはナイフ形石器、石斧、剥片尖頭器、角錐状石器、槍先形尖頭器、細石刃、神子柴型尖頭器、有茎尖頭器、搔器、彫器、砥石、叩き石等が含まれます。各器種を含め、データの各項目から関係遺跡を検索することが可能です。印刷する遺跡データは項目を省略したものとなりますが、完全な電子データのCDを付録につける予定です。

また、日本列島全体の旧石器時代遺跡分布図、各県別遺跡分布図、時期別遺跡分布図等を作成し、各種遺跡分布に関する解説を掲載する予定です。以下は体裁、目次の概要です(内容を部分的に変更・省略する場合があります)。

体裁等

A4版、約400頁(見込み)、付録：遺跡データのCD

目次

第1部 日本列島の旧石器時代遺跡

1. 日本列島の旧石器時代遺跡概観
2. データベースの概要と作成の経過・関係者
3. 時期別の遺跡分布(付録の時期別遺跡全図と対応：a. ナイフ形石器文化前半期；b. ナイフ形石器文化後半期；c. 細石刃文化期；d. 縄文時代草創期)
4. 都道府県別の遺跡分布(各県本文1頁・分布図1頁)

第2部 都道府県別旧石器時代・縄文時代草創期遺跡一覧(約260頁)

1. 遺跡一覧表(北から南へ都道府県順に遺跡一覧を掲載)
2. 文献一覧表
3. 英文解説(2頁)

巻末：時期別遺跡全図 1: 全遺跡, 2: ナイフ形石器を含む遺跡, 3: 台形石器・斧形石器を含む遺跡, 4: 剥片尖頭器・角錐状石器・三稜尖頭器・槍先形尖頭器を含む遺跡, 5: 細石刃・細石核を含む遺跡, 6: 神子柴型石斧・有茎尖頭器・草創期土器を含む遺跡

なお、予定価格は5000円～6000円前後(送料別)で、2009年秋以降の日本旧石器学会刊行物・web site等で確定価格・振込先等をお知らせし、ご予約・振り込みをいただいた方に印刷所から送本いたします。予約先は次の通りです。

【予約先】日本旧石器学会事務局(101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1、明治大学博物館内、Fax: 03-3296-4365) 宛、Fax または郵便葉書に氏名・住所・

電話番号・メールアドレス・希望冊数を記してお申し込み下さい (DB 作成県責任者・入力者分は予約不要)。
(日本旧石器学会データベース委員会)

テーマ 福島県猪苗代湖畔の旧石器時代遺跡 (仮題)
開催日 12月26日(土)・27日(日)
開催場所 福島県立博物館(福島県会津若松市城東町)

関連学会情報

お知らせ

日本考古学協会 2009 年度山形大会

開催日 2009年10月17日(土)・18日(日)

開催場所 東北芸術工科大学(山形市上桜田)

日程

公開講演会(17日)

田口洋美「技術行動系研究と民族考古学」

ジャックベルグラン「ヨーロッパにおける石刃剥離」

研究発表文科会(18日)

分科会 I 「石器製作技術と石材」

公開シンポジウム『黒曜石が開く人類社会の交流』

開催日 2009年11月7日(土)・8日(日)

開催場所 首都大学東京南大沢キャンパス(東京都八王子市南大沢1-1)

信州黒曜石フォーラム 2009「黒曜石の研究はどこまで進んだか」

開催日 2009年11月15日(日)

開催場所 岡谷市生涯学習館(長野県岡谷市中央町1-11-1)

第14回石器文化研究交流会ぐんま大会

開催日 2009年11月21日(土)・22日(日)

開催場所 高崎市南公民館(高崎市八島町110番地27)

考古学研究会東京例会・石器文化研究会合同シンポジウム

テーマ 考古学の方法論を見なおすー形式・境界・時代ー

開催日 2010年1月30日(土)

開催場所 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1階1011教室

第35回九州旧石器研究会

テーマ 九州島における後期旧石器時代初頭の石器群を求めて

開催日 2009年12月5日(土)・6日(日)

開催場所 指宿市考古博物館(鹿児島県指宿市十二町)

第23回東北日本の旧石器文化を語る会

会費納入のお願い

日頃より日本旧石器学会の運営につきましてご理解、御協力をいただき、ありがとうございます。日本旧石器学会では会費は前納を原則として運営をさせていただいております。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の支払い手続きをなされますようお願い申し上げます。年会費5,000円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。

編集後記

今年度から、当面の間、年3回の発行となりました。予定されているホームページとも連動しながら本会の活動や調査研究情報などを迅速に提供したいと思います。本号は第7回大会特集号です。初めての地方研究会との共催となる記念すべき大会となりました。大会報告をこれまでの1頁から2頁に拡大しました。大会の臨場感が少しでもお伝えできればと思います。(史)

日本旧石器学会ニュースレター

第12号

2009年10月1日発行

編集:日本旧石器学会ニュースレター委員会

加藤勝仁・谷和隆・藤野次史・山原敏朗

発行:日本旧石器学会

事務局:明治大学博物館 島田和高

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

アカデミーコモン地階 電話:03-3296-4431

E-mail ma96018@mics.meiji.ac.jp